

2025年9月1日発行



生活工房だより

発行 社会福祉法人 生活工房

神奈川県川崎市多摩区南生田2-16-14 桜の杜301
TEL 044-948-6341 FAX 044-948-6342

2025年

夏号

NO.44

法人設立10年目を迎えるにあたり

2025年度は早くも5ヶ月が経過いたしました。連日の猛暑が続く中、さつきグループ、わーくはうす・ひこばえ各事業所では、法人理念の実現に向けて、また、今年度事業計画において立てたそれぞれの目標に向かって、職員一同、日々精力的に取り組んでいます。

さて、本年12月1日、生活工房は社会福祉法人設立10周年を迎えます。この10年間でグループホームのユニットは2つ増え、職員数も60数名だったものが現在は90名前後の大所帯の法人となってきました。職員数が増えたことにより、ご利用者様により寄り添った支援が提供できるようになったのではと思います。しかしながら、今後も永続的に法人が続いていくためには、各基盤の整備、解決していかなければならない課題は山積しております。

これまで同様、ご利用者様、ご家族の皆様、地域の皆様のお力添えをいただきながら、職員とともに成長していける法人でありたいと思っております。

そしてこの節目の年に、新規事業を開始させていただくこととなりました。稲城市においてグループホームを開設いたします。3月上旬から建設工事を始め、9月末日の竣工予定です。稲城市での事業は、地域の皆様のニーズに少しでもお応えすることができるよう、ショートステイ事業所を併設いたします。将来、グループホームの利用を考えている方の体験の場、ご家族様のご事情等による緊急時の受け入れの場等、それぞれの目的に応じた身近な施設としてご利用いただけるよう準備しております。



生活工房にとって新しい試みとなりますが、ご利用者様に満足していただけるサービスが提供できるよう、職員一同力を結集し、全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長 野田卓明

写真右より 稲城市長 高橋勝浩様 理事長 野田卓明 副理事長 春田耕作
(株) 齊藤建築設計事務所 代表取締役 齋藤真一郎様 (株) 相羽建設株式会社 代表取締役 相羽健太郎様



稲城市グループホーム

稲城市より福祉サービスの運営事業所の選定をいただき、 いよいよグループホーム開設へ

稲城市にグループホームを作るという計画を前理事長が中心になって始め、現体制が引き継ぎ、この秋にようやく開設の運びとなりました（まだ認可は下りていませんが）。この間、土地や建物を探すもなかなかいい物件は見つからず、一方ではいいお話があって、建物の賃貸借契約作成まで進んだものの直前で頓挫、ということも。資金があればポンと土地を買ってドンと建てて、ということが可能ですがそうもいかず。なかなか難しいものだなあ、と思っていたと、稲城市の土地を使った福祉サービスの運営事業所募集という計画が発表されました。そしてありがたいことに当事業を実施する法人として生活工房が選定され、今日に至ります。



2階建ての建物にグループホームとショートステイ ただ今、事業所とユニットの名称検討中

2階建ての建物で、男女それぞれ1ユニットずつのグループホームとショートステイを開設いたします。また、数年内に同一敷地内でさらに事業を開設する予定です（事業の内容は検討中です）。

開設までに準備しなければならないことは山積しておりますが、その一つに「事業所とユニットの名称」があります。この期に及んで未定というのもお恥ずかしい話ですが。正式名称は長くてもいいと思いますが、略称あるいは通称もセットで考えたいところです。「さつき」「ひこばえ」「ふじみ」、それぞれ覚えやすく響きのいい略称です。3音節から4音節というところですかね、そのくらいの長さの略称や通称にまとめられる名称を考えます。この会報が発行される頃にはさすがに決定しているでしょう。

副理事長 春田耕作





事業所だより

私たちさつきグループは、「そのひとらしい地域での生活と、そのひとらしい自己実現を支援する」という法人理念のもと、利用者一人ひとりの生活に寄り添うことを心がけ、地域に根差した福祉の実現を目指してまいりました。2024年度も現実は上手くいく事ばかりではなく、一進一退の状況ではありましたが、ご家族、関係者の皆様にご協力いただいたことで、前を向いて歩いていく事ができました。心より感謝申し上げます。

2025年度も法人理念を達成する為に、適切なサービス提供を行える人材をより多く育成する

ことが鍵であると考えております。さらには、さつきグループで働く職員がより働きやすくなるように、労務環境の改善にも力をいれていき、働きやすい職場でのびのびと職員が成長し、それが利用者支援、適正な障害福祉サービスの提供に結びつくように尽力してまいります。

まだまだ未熟な事業所であり、学ばなければならないことが山ほどありますが、皆様には引き続き変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さつきグループ 管理者 野田弘

令和7年度、わーくはうす・ひこばえでは、これまで大切にしてきた「障害を持つ人のその人らしい地域生活を支援する、一人ひとりの個性を尊重し、その方に合った作業を提供することで、日々喜びや達成感を得られるよう支援する」という基本方針を軸に据えつつ、さらなる歩みを進めていきたいと思っています。

今年度は特に、「地域の中でひこばえを広く知ってもらう」ことを新たなテーマとして掲げました。

近頃、パン屋での店舗販売や麻生区役所内での販売、また外部の地域イベントに出展する機会を通じて、工芸部が手がける作品に対する関心が高まりつつあります。特に、商品そのもののデザイン性に注目が集まり、徐々にひこばえの“ファン”と呼べるようなお客様が増えてきたことは、大きな励みとなっています。

このデザインを活かしたショップカードを販売先やイベントで配布することで広報効果を高められるのではないかと考え実践してきました。その効果か、昨年度は福祉関連の催しだけでなく、北部市場で開催された「食彩まつり」や、生田緑地での「食の祭典」といった大規模なイベントにもご招待いただき、参加の機会を得ました。

この2つのイベントでは、新たに来場された子どもたちに向けたワークショップも企画・実施し、多くのお客様から好評をいただきました。こうした経験を通じて、地域との新たな接点や関係性が生まれたことは、私たちにとって大きな財産です。

令和7年度は、これらのつながりをさらに深め、地域とともに歩む存在としての「ひこばえ」を育んでまいります。今後とも変わらぬご支援とご協力を、心よりお願い申し上げます。

わーくはうす・ひこばえ 管理者 伊藤祐介





食彩の杜 ふじみ



食彩の杜ふじみは生活工場の配食センターとして、さつきグループとわーくはうす・ひこばえへ日々の食事を届けています。安全な食材、栄養摂取基準に基づいた献立、厨房の衛生環境を徹底し、利用者様に安心し、喜んでいただける食事を提供することを基本方針として日々取り組んでいます。

今年度のテーマの一つに、「安心・安全な食事作りをするため、よりよい衛生環境を整えること」を掲げています。昨年より新たに、専門家に依頼して食品衛生点検や衛生講習会の実施を始めました。第三者の評価を通して現状を知ること、今後の課題発見に繋げることができ、ふじみ職員全体の意識も高まったと感じています。十分な評価を得られるよう継続し、これからも日々の積み重ねを大切にしていきたいです。

また、今年度は衛生講習会をふじみ職員だけでなく、生活工場全体で共有し、ひこばえとさつきからも10名近く参加してくださる予定になっています。給食施設向けの難しい話というより、

これからの暑い季節に気を付けるべきポイントをテーマに、特に食中毒などの身近な課題について取り上げているので、各現場や普段の生活でも取り入れやすい内容になっていると思います。

利用者様と直接関わる機会があまりないふじみですが、配送の際にいつもにこにこお話してくださる利用者様もいらっしゃる、ふじみの食事を楽しみに待ってくださる様子が伝わりほっこりし、励みになっています。

まだまだ分からないことも多いですが、アンケートやホーム見学を通して、利用者様ご本人の声や世話人様の意見を伺える機会は、とてもありがたいです。少しずつですが、各ホームの職員様と連携を取れることも増え、勉強になるエピソードについて教えていただくこともあり、こういった新しい気づきを得て、よりよい給食づくりに繋げていきたいです。

食彩の杜ふじみ 栄養士 高橋知花



防災委員会・BCP委員会

防災委員会・BCP委員会では、ここ数年取り組んでいた計画作成や備蓄体制づくりになんとか目途がたち、これからは実際に現場で防災体制がうまく機能するように、色々と方策を巡らせていく段階であるという認識で、取組みに入りました。

さしあたり、昨今全国的に被害が目立つ風雪水害について、現場で読みやすい・わかりやすいマニュアル作りを実施していければというところで、一部水害リスクの高かったホームでは管理者さん・職員さんが率先して動いてくれ、避難所までのルートを写真中心で作成していただくことができました。

その一方、2024年度は「実際に雨が降っていない段階で避難指示が予防的に発令される」という、今まで想定していなかったケースにも遭遇しました。「いつ」避難すればいいのかの判断がより難しくなり、動き出すまでの許容時間が、より短くなってしまったということだと捉えています。

残念ながら、日本では今後突発的な災害はさらに増加していきそうです。それぞれの現場が少しでも安全を確保できるよう、地道に改善を重ねていきたいと考えております。

防災委員会、BCP作成委員会 委員長 雪本広介



虐待防止委員会

虐待防止に向けた取り組みについて、以下のとおり基本方針および重点目標を定め、利用者様に安心・安全なサービスをご提供いたします。

まず、虐待そのものの防止を最優先事項とし、早期発見・早期対応にも積極的に努めてまいります。今年度の虐待防止委員会のテーマは、生活工房における「職員による虐待ゼロ」。これを達成するために、研修を通じて職員一人ひとりの自己研鑽を促し、人権意識の向上と意識改革を図ってまいります。

さらに重点目標として、各事業所における利用者様の過ごし方や個々の特性を改めて見直し、「利用者様本位」の支援が行われているかを、職員全体で十分に理解・共有します。具体的には、研修後に理解度を確認する振り返りセッションや、学びの定着を図るためのレポート作成を実施し、研修内容が現場で確実に活かされる仕組みを整備いたします。

私たちは、これらの取り組みによって利用者様が安心できる環境と安全なサービスを実現し、虐待の根絶に向けて全力を尽くしてまいります。

今後ともご指導ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

虐待防止委員会 委員長 寺島慎吾



リスクマネジメント委員会

今年度のリスクマネジメント委員会の事業計画

今年度の生活工房では、利用者様の安全と安心を最優先に考え、リスクマネジメント委員会を中心に様々な取り組みを行っています。以下に、今年度の事業計画の主な内容をご紹介します。

1. 基本方針

リスクマネジメント体制を構築し、組織的に福祉サービスの質の向上に取り組みます。

2. 今年度のテーマ

チームで作り上げるリスクマネジメント

3. 重点目標

・事故・ヒヤリハット報告書の収集と活用

報告書に基づく要因分析を行い、事故の再発防止策を検討した上、共有していきます。

・継続的なサービス改善

各ホーム担当のサービス管理責任者と協力し、リスクマネジメント研修及び専任世話人研修を実施します。

今年度の生活工房の取り組みは、利用者様の安全と安心を確保するための重要なステップです。リスクマネジメント委員会の活動を通じて、より良いサービスを提供し、皆様に安心してご利用いただける環境を整えてまいります。

リスクマネジメント委員会 委員長 若濱光一

感染症対策委員会

感染症対策委員会は利用者各位及び職員の健康と安全を確保することを目的に、「感染症及び食中毒の発生とまん延の防止」を担保できる体制づくりを基本方針として活動しています。

今年度のテーマは「感染症のまん延・食中毒の発生ゼロの施設」として、特に施設環境の整備に焦点をあてた活動を行います。

具体的には、「職員並びに利用者各位に向けた清潔行動・衛生保持のパンフレット」並びに「職員向けの感染症及び食中毒の予防、発生時におけるまん延防止対策のマニュアル」の作成・配付をしてまいります。並行して各ユニットの調理場環境の確認と整備を進めていきたいと考えています。

また、年2回の定期的に開催される研修会を実施し、職場環境、課題と結び付け定期的に振り返りを行い、具体的な行動計画、実践していける環境を整えてまいります。

不特定多数の人が出入りする施設内の感染症対策は大変難しいものですが、感染症の発生を防ぐため、まん延を防止するためには、最新の正確な知識、衛生的な環境、職員・スタッフの予防意識並びに職員・スタッフによる施設利用者各位の予防意識向上への配慮が欠かせないものとなります。

課題は山積されておりますが、より一層安全で安心できる施設を目指し邁進したいと考えております。

感染症対策委員会 山田和広

イベント推進委員会

2025年度のイベント推進委員会は、新たなメンバーを3名迎え5名で活動をしていきます。今年度は、日帰り旅行と秋祭り、餅つき大会のイベントを年間予定として企画催行していく予定。また、職員交流会も去年に引き続き、企画をしています。

まだ内容については未定だが、餅つき大会以外のイベントを恒例行事にできればと考え、今年度は秋祭りを予定しています。

例年、イベント推進委員会のメンバーが変わらずに属人化していたが、昨年より新たなメンバーを迎えることができ、世代交代の時期に来ています。今年は、さらに新たなメンバーが増え、新し

いイベント推進委員会として利用者はもちろん、職員も楽しい企画を進めていきます。

法人の理念である、「その人らしい地域での生活と、その人らしい自己実現を支援する」ということはなにかと考えながら、ムリのないイベントプランを計画、実行していき、風通しの良い会議や職員間の良質なコミュニケーションを大事に活動していきたいと思います。

イベント推進委員会

委員長 伴依莉沙



研修委員会

私たちの法人は、「その人らしい地域での生活と、その人らしい自己実現を支援する」という理念のもと、福祉サービスの提供に取り組んでいます。利用者様一人ひとりが、自分らしく、安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、専門性を高め支援を行っています。

この理念を実現するためには、職員一人ひとりの力が欠かせません。私たち研修委員会は、職員が安心して働き、成長できる環境づくりを重視し、研修制度の充実とキャリアパスの体系化を進めています。新任職員には3回にわたる新人研修を、中堅職員には専門性の深化とリーダー研修を提供し、それぞれの職位・職責に応じた学びの機会を整えています。

また、学びの機会を得た職員がアウトプットする場も提供していきます。獲得した知識を現場で実践し、深め、共有することで、「研修を受けてよかった」、「もっと色々な研修を受け学びたい」という意欲向上に繋がるよう、仕組みを整えているところです。

福祉の現場は、感情や人間関係が深く関わる仕

事だからこそ、職員自身の心の健康と成長が、利用者様へのより良い支援につながると考えています。

これからも私たちは、地域に根ざした福祉の専門職として安心・安全・安定を確保しながら、利用者様の「その人らしさ」を追求するべく、共に歩んでまいります。

研修委員会 委員長 長谷川研二



全国グループホーム等研修会（神戸）にて



全国知的障害福祉関係職員研究大会（福井）にて

2025多摩美まつり

7月26日、今年も麻生区多摩美地区の多摩美まつりに参加いたしました。

毎年、飲食の模擬店を出店して参加していますが、今年はフライドポテト、冷やし大学芋、冷やし今川焼(チョコ味)を販売いたしました。事前にイベント推進委員会で試食会を開催して販売商品を吟味し、当日の販売戦略を練るなど、みんなで準備を進めてきました。

お祭り当日は朝早くから会場のセッティング。本日も猛暑が予想され早くも汗だくになってしまいました。この多摩美まつり、何故か例年ゲリラ豪雨や雨が降る確立が多いのですが、今年は大丈夫かな?と若干の心配をしながらセッティング終了です。

午後からは、ふじみ職員、ボランティアの方も合流し、商品の準備開始です。

お祭り会場も、盆踊りの音響テストや各模擬店の準備、お祭りの雰囲気ワクワクしている子どもたちが走りまわる賑やかな声で、段々と盛り上がってきました。

夕方になり、お祭りが始まりました。用意していたフライドポテトは早々に完売。

急遽仕入れをし追加販売するほどでした。



「唄えば うきうき いいじゃんか」

踊れば うきうき そうじゃんか」

川崎市の盆踊りと言えば、川崎おどりです。都はるみさんの歌声と多摩美地区の小中学生による多摩美太鼓の演奏が大いに会場を盛り上げています。会場にいる皆様が一体となり大きなうねりを作っていきます。

「アソレソレソレ ヨイヨイヨイヨイ……」

心配していた雨も降らずに、お祭りも無事終了。当日参加していただいたボランティア、職員のみなさんのおかげで販売も目標を達成することができました。

暑い夏の夜でしたが、皆様の熱気を間近で感じられることができ、とてもいい思い出となりました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

(イベント推進委員会)



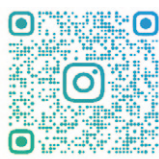
ホームページが
新しくなりました!

社会福祉法人 生活工房
ホームページ



Instagram
始めました!

生活工房
instagram



SEIKATSUKOBO_SH



ひこばえパン屋
facebook

